

英検協会『統合報告書 2025』(pp.33-34)

【コラム第5弾】

「データで見る英検® ～小・中・高校生の英語力向上の状況～」

高校生

—本報告書の主なトピックを毎週金曜日に順次ご紹介いたします—

先般、7月1日に英検協会として初めて「統合報告書 2025」を公開いたしました^{※1}。
以降、毎週金曜日に本報告書の主なトピックをコラム形式でご紹介しております。今回は第5弾として、
報告書 pp.33-34 に掲載した「データで見る英検 ～小・中・高校生の英語力向上の状況～ 高校生」
についてご紹介いたします。これを機会に、過去コラム第1弾から第4弾もぜひご覧ください。

[【コラム第1弾】統合報告書 2025 | 他グローバル試験に引けを取らない英検（受験者数・検定料）](#)（2025年7月4日付）

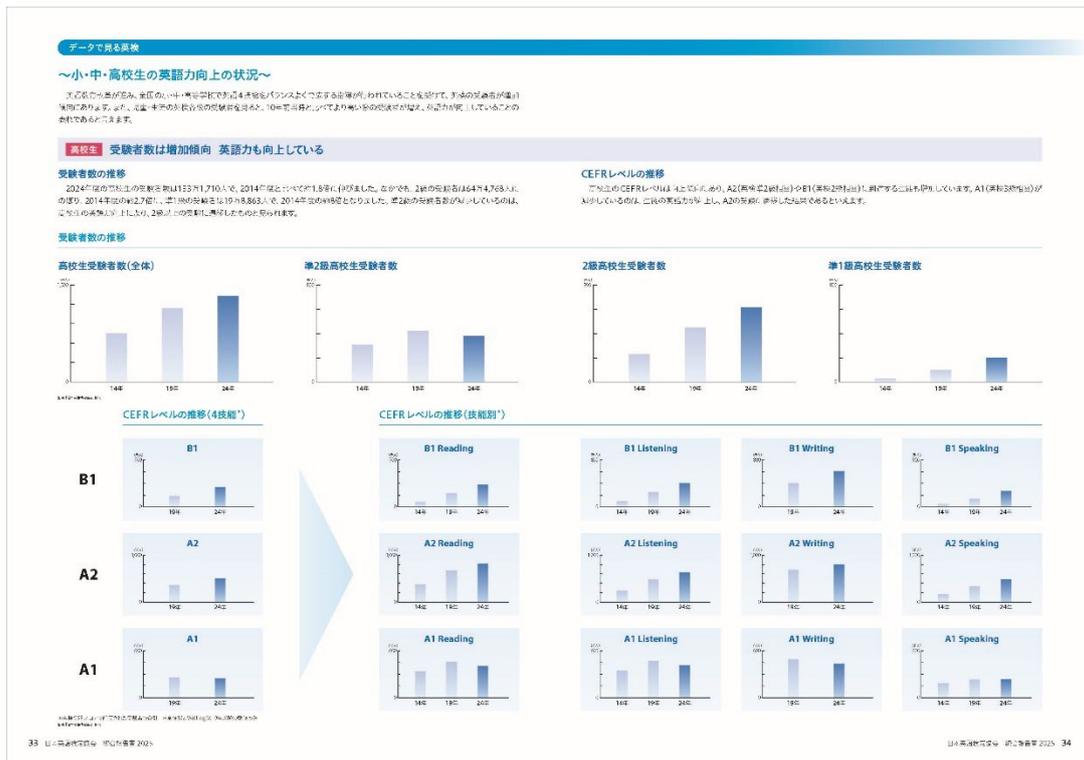
[【コラム第2弾】統合報告書 2025 | 2024年度の取り組み（問題制作・採点業務改革）](#)（2025年7月11日付）

[【コラム第3弾】統合報告書 2025 | 2024年度の取り組み（デジタルサービス推進）](#)（2025年7月18日付）

[【コラム第4弾】統合報告書 2025 | 2024年度の取り組み（英検 S-CBT 海外展開）](#)（2025年7月25日付）

※1 英検協会初、10年の成果とDX戦略をまとめた『統合報告書 2025』公開（2025年7月1日付）

なお、来週もまた新たなトピックをご紹介します。



(コラム)

【高校生編】文部科学省が掲げる教育改革がもたらす全国の高校生の学力向上

コラムのまとめ

- ・高校生の英検受験者は、10年で約1.8倍に増加し、特に2級と準1級が大幅に伸長
- ・文部科学省の「第4期教育振興基本計画」に基づく改革で、A2・B1到達者が増加
- ・CEFR^{※2}における4技能の底上げとA1→A2→B1へのレベル移行の進展による顕著な学力向上

高校生による英検受験者数は過去10年間で約1.8倍に増加し、2024年度には133万1,710人に達しました。級別に見ると、とりわけ2級と準1級の伸びが顕著で、2級受験者は64万4,768人（10年前の約2.7倍）、準1級受験者は19万8,863人（同約8倍）と大きく増えています。つまり、受験者数の増加だけでなく、受験者の習熟度そのものが底上げされている点が注目されます。

文部科学省が掲げる「第4期教育振興基本計画」（令和5～9年度）では、高校卒業段階でCEFR A2レベル（準2級相当）以上を達成する高校生の割合を6割以上、CEFR B1レベル（2級相当）以上を3割以上とする目標を定めています。今回のデータは、全国的に推進されてきた英語教育改革の成果を上げ始めていることを示していると、英検協会では捉えています。

CEFRの観点で4技能全体の推移を見ると、A1レベル（3級相当）はほとんど変化が見られない一方、A2レベル（準2級相当）とB1レベル（2級相当）は顕著に上昇しています。これは学習者全体のレベルがA1からA2、さらにB1へと着実に向上していることを示しています。

さらに技能別に見ても、すべての技能でCEFRレベルが平均して上昇しており、4技能をバランスよく伸ばしている傾向が鮮明です。これも、前述の文部科学省の施策が全国規模で奏功している裏付けと言えるでしょう。

※2 CEFR：言語能力を6段階で評価する国際的な指標

A1 = 英検3級相当

A2 = 英検準2級相当

B1 = 英検2級相当

B2 = 英検準1級相当

※「英検」およびそのロゴは、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標または商標です。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 日本英語検定協会 広報担当 (kouhou21@eiken.or.jp)